

# 2019年3月期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2019年5月9日  
株式会社 **クレスコ**



① 決算のポイント



# 1.1. 売上高・利益 連結

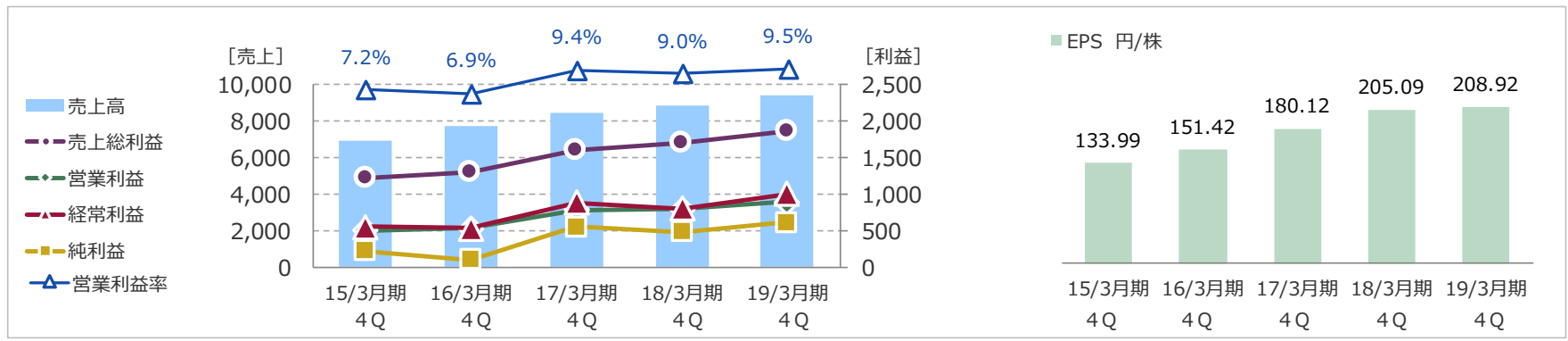


[単位：百万円未満切捨]

- 経営環境 … 顧客毎の濃淡はあるものの、IT投資が総じて安定的に成長。  
海外経済情勢に起因する景気の不透明感や、為替・株式相場の動向、自然災害など、懸念事項は多々発生したが、攻めのIT投資やデジタル・トランスフォーメーション(DX)が後押し。
- 下期は、リカバリー施策に注力したが、上期の金融案件の剥落や不採算プロジェクトの発生が重しに。  
また、開発人員不足(社員、ビジネスパートナー)の影響は依然として大きく、生産性向上は継続的な重点課題。
  - 売上高 … 顧客ポートフォリオおよび子会社を含む事業体制見直しの結果、9期連続増収。
  - 利益 … 営業利益、経常利益、当期純利益ともに増益。(営業利益、経常利益は、9期連続増益)

通期		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	対通期達成率	19/03期 18/5/8 予想	前年同期比
	売上高		30,893	33,328	<b>35,230</b>	<b>105.7%</b>	<b>99.2%</b>	35,500
売上総利益		5,745 (18.6%)	6,308 (18.9%)	<b>6,673 (18.9%)</b>	<b>105.8%</b>			
営業利益		2,707 (8.8%)	3,091 (9.3%)	<b>3,207 (9.1%)</b>	<b>103.7%</b>	<b>97.8%</b>	3,280 (9.2%)	106.1%
経常利益		3,078 (10.0%)	3,492 (10.5%)	<b>3,658 (10.4%)</b>	<b>104.8%</b>	<b>102.2%</b>	3,580 (10.1%)	102.5%
純利益		2,042 (6.6%)	2,202 (6.6%)	<b>2,285 (6.5%)</b>	<b>103.8%</b>	<b>94.6%</b>	2,416 (6.8%)	109.7%
EPS 円/株		180.28	200.25	<b>208.92</b>			220.84	

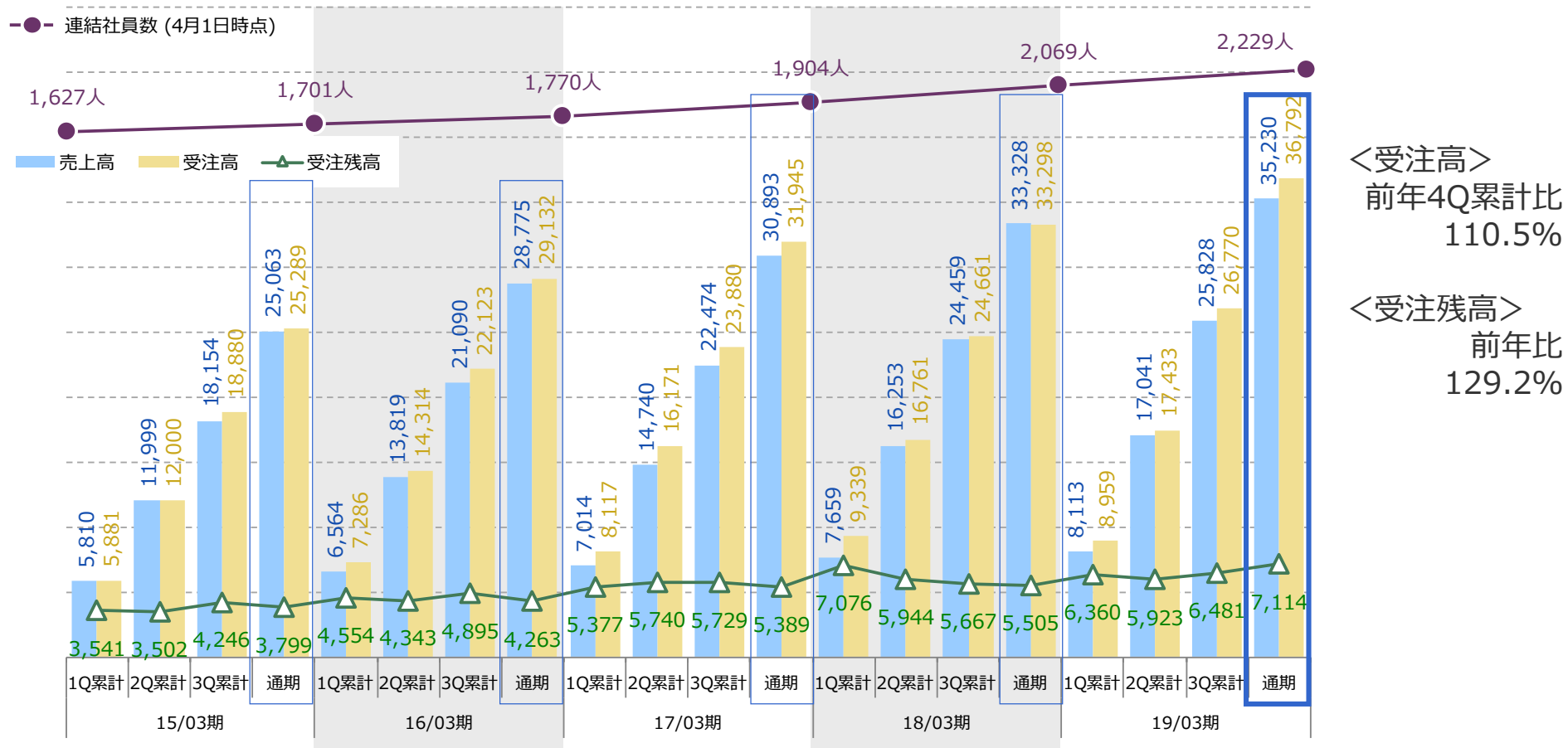
4 Q



[注] ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。  
[注] 「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

- 顧客の引合いは、攻めのIT投資やデジタル・トランスフォーメーション(DX)を背景に概ね順調に推移。
  - ソフトウェア開発 … 「金融」は底打ち感、顧客のミックスに変化があるものの、全体では引合いの勢いが良好。
  - 組込み型ソフトウェア開発 … 「カーエレクトロニクス」「情報家電・その他」の引合いは、顧客別の濃淡はあるものの、順調。
- 開発人員の確保、生産性向上が、受注伸長の鍵。

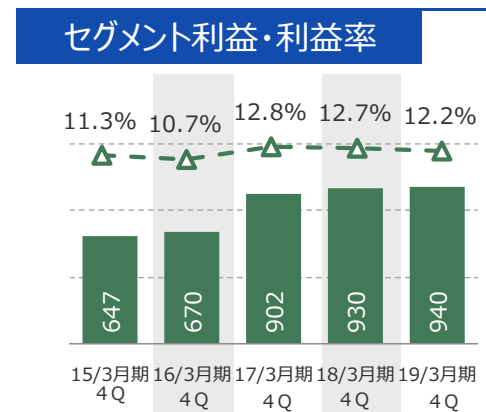
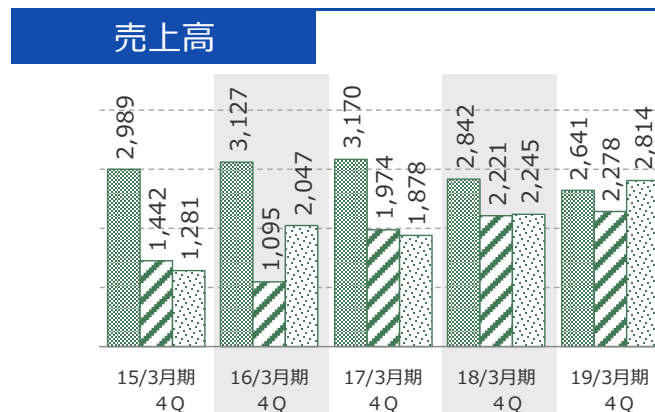
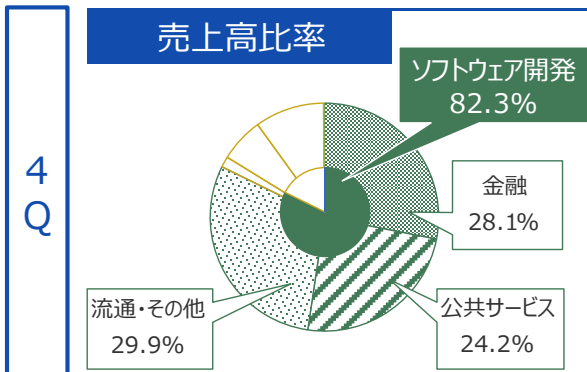


[単位：百万円未満切捨]

## ■ ソフトウェア開発

- ・ 事業ポートフォリオの見直し、リソースのシフトを実施。
- ・ 不採算プロジェクトの再発防止および品質の強化に注力するも、上期の出遅れが影響。
- ・ 2018年1月以降に実施した3件のM&A(ネクサス、イーテクノ、アルス)による連結効果は、プラス材料。
- 金融 … メガバンクの大型案件剥落が影響し、前年対比では大きくマイナスになるも底打ち感あり。
- 公共サービス … 旅行業および人材サービス向けの案件が堅調に推移。
- 流通・その他 … 子会社の連結効果が奏功。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
通期	ソフトウェア	金融	12,486	11,868	<b>10,438</b>	<b>88.0%</b>
		公共サービス	6,795	7,793	<b>8,545</b>	<b>109.6%</b>
		流通・その他	6,293	8,062	<b>9,914</b>	<b>123.0%</b>
		売上高	25,575	27,724	<b>28,898</b>	<b>104.2%</b>
		セグメント利益(率)	3,077 (12.0%)	3,431 (12.4%)	<b>3,254 (11.3%)</b>	<b>94.8%</b>



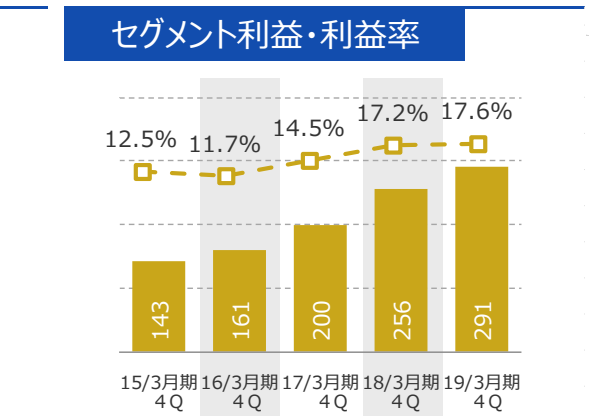
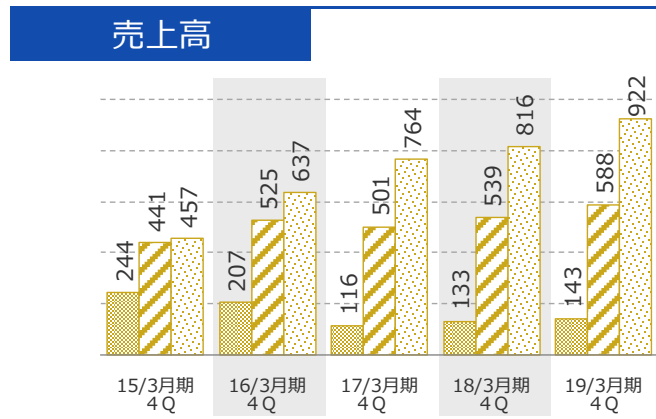
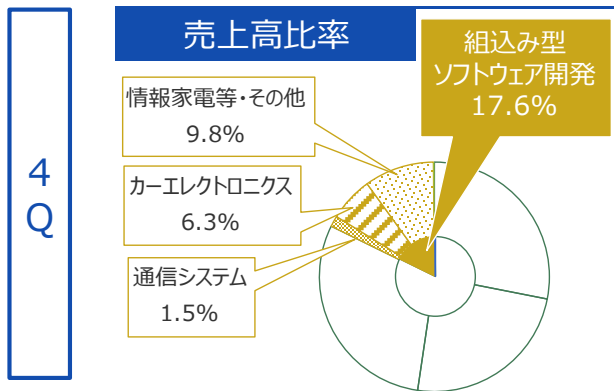
[単位：百万円未満切捨]

## ■ 組込み型ソフトウェア開発

・ 受注単価の見直しや生産性改善の取組み、ニアショアを含む開発体制の強化が奏功。

- 通信システム … スマートフォン関連のプロジェクトが増加。現体制を維持。
- カーエレクトロニクス … 主力のインフォテインメント系、表示系が堅調。
- 情報家電等・その他 … テレビ、カメラ、AIスピーカー等のデジタル情報家電のほか、子会社「シースリー」の制御系開発が堅調に推移。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
通 期	組 込 み 型	売上高				
		通信システム	518	510	<b>526</b>	<b>103.2%</b>
		カーエレクトロニクス	2,090	2,041	<b>2,390</b>	<b>117.1%</b>
		情報家電等・その他	2,635	2,906	<b>3,368</b>	<b>115.9%</b>
		5,244	5,458	<b>6,285</b>	<b>115.2%</b>	
	セグメント利益(率)	827 (15.8%)	905 (16.6%)	<b>1,146 (18.2%)</b>	<b>126.6%</b>	





② 来期の方針・見通し



[単位：百万円未満切捨]

2 Q 累 計	19/03期						20/03期			
	18/5/8 予想	前年 同期比	実績		前年 同期比	達成率	19/5/9 予想	前年 同期比		
	売上高	17,300	106.4%	17,041		104.8%	98.5%	<b>18,460</b>	<b>108.3%</b>	
売上総利益			3,067	(18.0%)	101.4%					
営業利益	1,480	(8.6%)	100.7%	1,405	(8.2%)	95.6%	95.0%	<b>1,500</b>	<b>(8.1%)</b>	<b>106.7%</b>
経常利益	1,620	(9.4%)	96.0%	1,720	(10.1%)	102.0%	106.2%	<b>1,704</b>	<b>(9.2%)</b>	<b>99.0%</b>
純利益	1,096	(6.3%)	94.7%	1,076	(6.3%)	93.0%	98.2%	<b>1,117</b>	<b>(6.1%)</b>	<b>103.8%</b>
EPS 円/株	100.18			98.39				<b>102.1</b>		

通 期	19/03期						20/03期			
	18/5/8 予想	前年 同期比	実績		前年 同期比	達成率	19/5/9 予想	前年 同期比		
	売上高	35,500	106.5%	35,230		105.7%	99.2%	<b>37,880</b>	<b>107.5%</b>	
売上総利益			6,673	(18.9%)	105.8%					
営業利益	3,280	(9.2%)	106.1%	3,207	(9.1%)	103.7%	97.8%	<b>3,400</b>	<b>(9.0%)</b>	<b>106.0%</b>
経常利益	3,580	(10.1%)	102.5%	3,658	(10.4%)	104.8%	102.2%	<b>3,813</b>	<b>(10.1%)</b>	<b>104.2%</b>
純利益	2,416	(6.8%)	109.7%	2,285	(6.5%)	103.8%	94.6%	<b>2,416</b>	<b>(6.4%)</b>	<b>105.7%</b>
EPS 円/株	220.84			208.92				<b>220.84</b>		

【注】 ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。

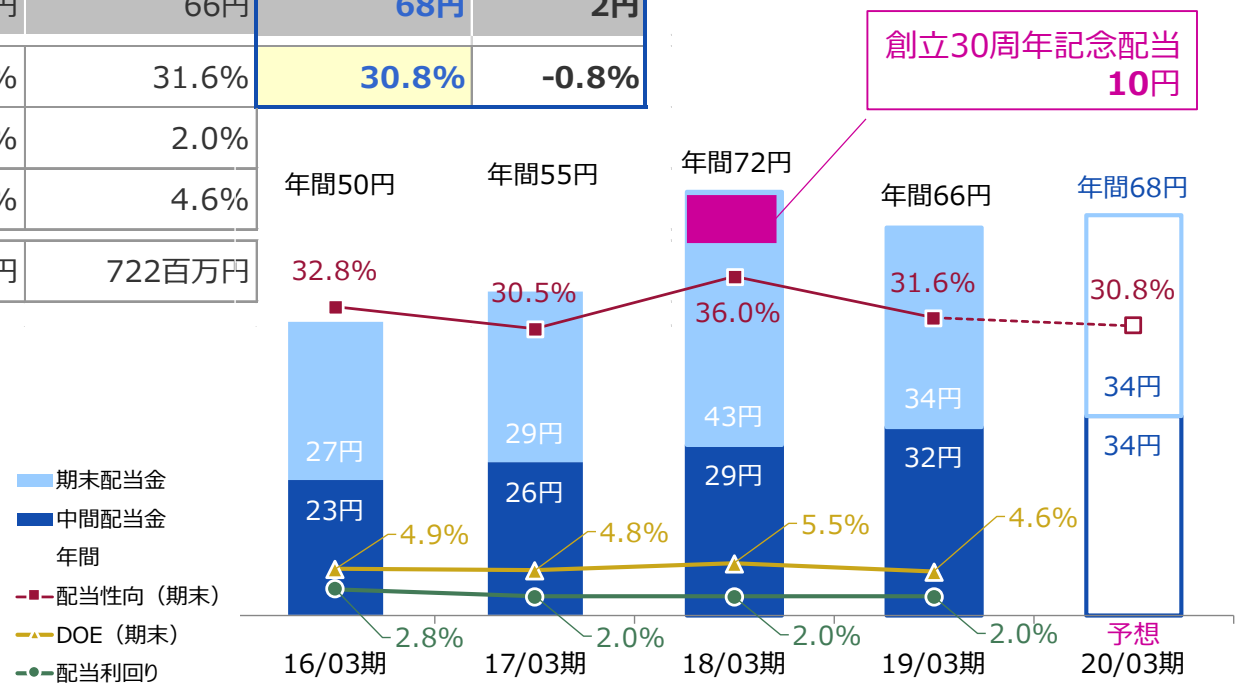
【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。



[配当金総額：百万円未満切捨]

	17/03期	18/03期	19/03期	20/03期	
	実績	実績	実績	19/5/9 予想	増減
中間	26円	29円	32円	34円	2円
期末	29円	※ 43円	34円	34円	0円
年間	55円	72円	66円	68円	2円
配当性向	30.5%	36.0%	31.6%	30.8%	-0.8%
配当利回り	2.0%	2.0%	2.0%		
DOE	4.8%	5.5%	4.6%		
配当金の総額	623百万円	781百万円	722百万円		

※2018年3月期の期末配当は、創業30周年記念配当含む



株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけしており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
- ▶ 特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、**当社(単体)**の経常利益を基に、特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

情報システムを含む設備投資は、全体では、昨年来の勢いを継続し、「攻めのIT投資」を主眼としたデジタル変革や、2020年開催の東京オリンピック、インバウンドへの対応などが下支えとなるが、需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず。

- 3月の日銀短観におけるIT投資の見通し  
企業規模や業種、業態によって濃淡があるが、クラウドやAI等の技術を利用した新しい製品やサービスにより、事業の変革を図り、価値創出や競争優位を確立するトレンドに大きな変化はなく、引合いは、引続き増加する見込み。
- 日本情報システム・ユーザー協会が実施の「企業IT動向調査2019」  
47.6%の企業が2019年度の予算を昨年度に引続き「増やす」と回答。
- 企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、システム開発の需要が確実。
- ITサービスのコモディティ化と低価格化が進む中、クラウドを活用したシステムを中心に市場は拡大し、IoT(Internet of Things)、AI(人工知能)/機械学習、運用自動化(RPA)といった先端技術のトレンドと相まって、投資意欲は一層拡大。
- 当社の足許の営業状況からも、お客様の投資意欲を窺うことができ、需要の更なる押上げを実感。

- 当社の主要セグメントにおいて特に成長が見込まれる、人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電の各分野は、「デジタル変革」の到来により、お客様層の裾野が更に拡大する局面にあり、当面の成長を見込む。
- 基幹系のシステム更改、新規サービス対応システム、新商品の組込みシステム、人材不足に起因する生産性向上を目的とするシステム(AI、RPA)、ハードウェア、運用のコスト削減を目的とするクラウドへの移行などは、有望なビジネスになると見込む。
- 当社グループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有し、世の中のトレンドを概ね取込めるポジションにあり、あらゆる企業、団体、産業から「デジタル変革」のパートナーとして期待されている。



- 前期の教訓(不採算プロジェクト5件発生による約1億円の損失)を活かし、品質管理強化と生産性向上を軸に足固めをしつつ、成長に弾みをつける時期。
- 需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず、継続的な人材の獲得・育成、生産性向上、開発体制の強化は、優先課題。
- 「デジタル変革」をリードし、顧客がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込型ソフトウェア開発事業では、技術および品質の面から更に強化。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実。
- クレスコグループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、顧客の環境変化をいち早くとらえ、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、グループ内協業や他社とのアライアンスを含めた事業を展開。

- 「CRESCO Ambition 2020」、に沿った経営
- サービス品質の強化による質的成長
- リソースおよび技術戦略の強化による量的成長
- M&Aによる成長スピードの拡大

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

# CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

### 5ヶ年ビジョンによる継続課題

1. 鉄板品質の提供
2. 生産性の追求
3. リソース戦略の強化
4. 人材の採用と育成
5. 新技術の研究・開発
6. グループ連携の強化
7. 営業体制およびお客様とのリレーションシップの強化
8. 新規ビジネスの組成
9. コーポレートガバナンスの推進
10. 健康管理と働き方改革の推進
11. ダイバーシティへの取組み



【ご参考】



	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション <span style="color: red;">【※4】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコワイヤレス <span style="color: red;">【※1】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ・アイディー <span style="color: red;">【※1】</span>	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
アイオス <span style="color: red;">【※7】【※11】【※13】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ九州	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
科礼斯軟件（上海） <span style="color: red;">【※6】</span>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/
シーズリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エス・アイ・サービス <span style="color: red;">【※2】【※4】</span>	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
メクゼス <span style="color: red;">【※3】【※9】【※10】</span>	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エヌシステム <span style="color: red;">【※5】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ネクサス <span style="color: red;">【※8】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●
アルス <span style="color: red;">【※12】</span>	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●
<b>子会社総数</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>11</b>

【※1】 2015年4月1日付で「ワイヤレステクノロジー」は「クレスコ・アイディー」を統合し、「クレスコワイヤレス」に社名を変更

【※2】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化

【※3】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化

【※4】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合

【※5】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化

【※6】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了

【※7】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化（当社の孫会社）

【※8】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化

【※9】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

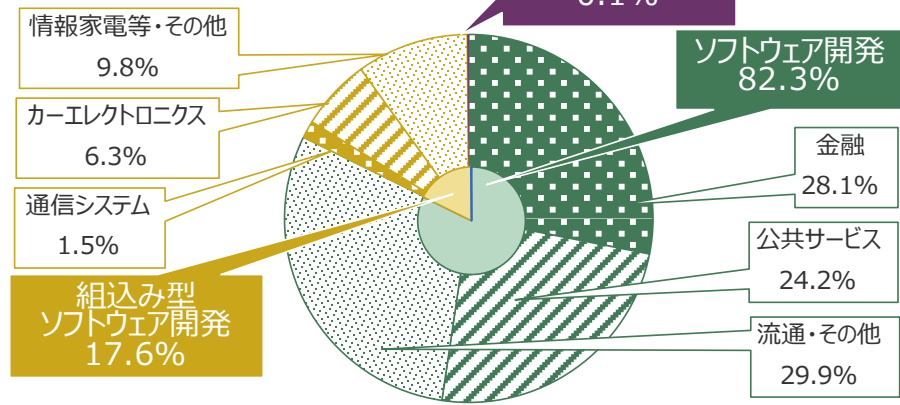
【※10】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合

【※11】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合

【※12】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化

【※13】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化（当社の孫会社）

<セグメント別の売上高比率：4Q>



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスアプリケーション開発</li> <li>・IT基盤システム構築</li> <li>・オリジナル製品・サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融 (銀行、保険 etc.)</li> <li>・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.)</li> <li>・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)</li> </ul>
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組込型ソフトウェア開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信システム (携帯情報端末 etc.)</li> <li>・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.)</li> <li>・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)</li> </ul>
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売</li> </ul>	



- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR推進室  
Mail : [ir@cresco.co.jp](mailto:ir@cresco.co.jp)  
TEL : 03-5769-8058